

様に執着したる年の始を採用するこいふことは穩當でない。關係の複雑なる社會に於て現行の年始を十日程繰り上げるこいふために起るべき一時的混亂の甚だしかるべきことは誰れしも豫想する所であるが、多大の困難をも冒して變更すべき程の理由は認め難い。

結 論

今回の問題は必ず近き將來に實現されるべき具體的問題である。これに對して私は問題の眞意義を廣く普及せしむることに努むるに共に、(1)及(2)に對しては賛成、(3)に對しては反對の意を表したいと思ふ。

○今月から星の掩蔽の豫報を掲げる。これは星が月によつて掩はれる現象で、丁度掩はれる時刻と出現の時刻とを算出してある。一般に、今迄採用してゐた「天文時」によされて今年から午前〇時を一日の起點とする。従つて一九時とは午後七時を云ふのである。方位さいふのは月の眞上から何度離れた(中心に對する角度)場所から星が出て来るかを示すものである。

望遠鏡お持ちの方の観測がのぞましい。

この時刻は京都大學天文臺に於ける出沒時刻であるが他の場所でも大した差がない。(次號を見て下さい)

(天文臺人)

京都で見える掩蔽(一月)

星名	光級	入	方位	出	方位
54 B Ceti	6.3	1d 19h 30 m	60°	1d 20 h 21 m	180°
μ κ	4.4	4 16 46	73	4d 17 46	327
64 Orionis	5.7	9 0 17	13	9 1 34	243
11 Leonis	6.5	13 2 52	106	13 4 16	224
海王星	7.7	5 30	29	6 32	261
b Virginis	5.2	15 23 42	178	16 0 52	332
γ Librae	4.0	20 5 17	104	20 6 27	356